

## 知床五湖の利用のあり方協議会（第5回）議事録

1. 場所：知床世界遺産センター レクチャールーム

2. 日時：平成21年12月14日 15:30～18:00

3. 出席者：別紙のとおり

### 4. 配布資料

- 資料1-1 ヒグマ活動期に関する検討状況
- 資料1-2 ヒグマ対処法引率者の認定カリキュラムおよび研修内容（案）
- 資料1-3 ヒグマ対処法引率者の養成等とヒグマ活動期の立入の認定イメージ図
- 資料2-1 利用調整地区制度の概要
- 資料2-2 協議会での検討事項概念図
- 資料2-3 知床五湖利用調整地区の立ち入りについて
- 資料2-4 知床五湖地区における利用適正化計画の算定について
- 資料2-5 知床五湖利用適正化計画骨子（案）
- 資料2-6 知床五湖利用調整地区の立入認定基準について（案）
- 資料3-1 広報について
- 資料3-2 高架木道の完成記念イベントの実施について
- 参考資料1 遭遇時フロー検討
- 参考資料2 受付・予約システムについて
- 参考資料3 知床五湖の利用のあり方協議会（第4回）議事録

## 5. 議事概要：

### (1) 開会挨拶：環境省釧路自然環境事務所 則久次長

本日の議題としては、ヒグマ活動期についての部会での検討状況の報告、利用調整地区制度に関連する説明、また来年度の利用についての3点をお願いしたい。

### (2) 議題1. ヒグマ対処法引率者検討部会の検討状況について

知床財団：資料1-1～1-3に基づき、「ヒグマ対処法引率者検討部会」の検討状況に関して説明。

しれとこウトロフォーラム 21：地上歩道のヒグマ活動期について、クマがいたら引き返すということでは、観光への影響が大きい。地上歩道の利用に関してどのように広報したら良いのか。これが最終的な結果では困る。引率者の能力があればできるのであれば、引率者の育成を行うしくみを考える必要がある。

しれとこウトロフォーラム 21：ヒグマと遭遇したら利用できないというのでは、今までと一緒に。ヒグマ活動期でも利用できるというそもそも論の根本的な見直しが必要。ヒグマがいたら利用できないということか。その点について曖昧な表現をしていたら検討は進まない。

ウトロ地域協議会：ヒグマは1頭ではなく複数出没する。GPSなどで、引率者をコントロールできるシステムをつくることは必須。

知床財団：これまでの検討から、初めの段階から認定により引率者のレベルを上げることは難しいという判断があり、応募要件で厳しいふるいをかけるよりも、安全に待避ができる引率者を選定するという事になった。したがってスタート段階では、安全確保を重点におき、スキルアップについては、動かしながら実施していった方がよいと考えている。なお無線連絡のシステムは必要ないということではなく、安全に待避を行うためには必要である。

しれとこウトロフォーラム 21：そもそもクマがいて無理に入れても安全性の担保はできるかが疑問。海外事例では自己責任、ライフル持参で立ち入るといった形を取っている。

知床斜里町観光協会：ヒグマ活動期はヒグマがいても入れるという話だったが、大きくぶれている。ヒグマの排除をしないという話はどうなるのか。排除しなければいつまで経っても利用できない。これまで検討してきた話が最初に戻ってしまう。

斜里町：ヒグマがいる時期でも利用可能な形態をどうやってつくっていくかという、これまでと目指すところは変わっていない。ただ引率者について、どういう仕組みで、何年訓練すればというタイムスケジュールは示せていない。運用をしないとわからない部分も多く、第1ステップとしてまず運用をしてみたらということがある。よりその育成期間を短くしていく方法というのは今後検討が必要。

知床斜里町観光協会：ヒグマがいても入れる当初の話に近づける努力が必要。ガイド、行政側との間でヒグマへの対処に関して共通認識を作る環境づくりを作ってもらいたい。そうしないと、システムは運用できない。

**知床エコツーリズム推進協議会**：部会で十分議論した内容に思えない。議論が浅いのでは。

**知床エコツーリズム推進協議会**：検討部会で議論した部分を資料に載せて欲しい。行政対地元が10対1での不利な議論の場になっている。答えありきの部会。ガイドが信頼されていない。行政も安全面で腹をくくる必要がある。

**しれとこウトロフォーラム 21**：ガイドさんは実際に10人引率していた場合、クマがいても進めるのか。

**知床エコツーリズム推進協議会**：ガイド業者は覚悟を決めている。五湖よりもフレペの方が危険と考えている。

**しれとこウトロフォーラム 21**：たえず人が来れば、クマがよりつかず安全になるということも考えられる。

**知床斜里町観光協会**：一年のばしたので、できるだけ努力が欲しい。来年の実験にはできるだけガイド業者に参加してもらい、訓練の場にして欲しい。

**環境省**：来年は長く実験をしたいと考えている。また遭遇回避をした場合、どの程度効果があるのか等はデータをとらないと解らない部分もあり、5月から7月にかけて実験とは別にモニタリングが必要と考えている。実験の参加については任意でも良いと考えていたが、できるだけ多くの方に参加してもらい、ノウハウを提供し合い、スキルアップする機会にできればと思う。

**しれとこウトロフォーラム 21**：五湖でのヒグマの見せ方をどうするのかを考える必要がある。

**しれとこウトロフォーラム 21**：部会のやり方は今のままで良いのか。信頼関係の構築が重要。

**知床エコツーリズム推進協議会**：ガイドが部会に出てきておらず、信頼関係をつくるべき。今回の話で溝が深まった。将来像を実現するための、解決策を示すべき。引率者選定の公平性を保つというのは基準が難しいのはわかる。どこが問題なのか整理をしないと、議論は平行線のままになる。

**しれとこウトロフォーラム 21**：責任の所在が問題。補償制度、自己責任などについて整理する必要がある。

**しれとこウトロフォーラム 21**：画期的な取り組みであり、まずやってみて変えていくというのはわかるが、観光の商品としての兼ね合いも考えた場合どうなのか。やり方にもっと工夫の余地はないか。

**知床エコツーリズム推進協議会**：これからのデータの蓄積が重要ではない。ガイドはこれまでクマとの経験を積んでいる。

**ウトロ地域協議会**：部会で十分議論して欲しい。信頼関係の再構築が必要。

**知床財団**：データは重要。データがあってこそ、このシステムだと考えている。文言では「遭遇した」と同じだが、これまでの、不特定多数が何の備えもなく歩いていて出会ったとは状況は異なる。新制度では経験ある引率者が音を出すなど、十分な危機回避を行う。ほとんどの場合はそれでクマはいなくなると思われる。その上で遭遇する、

ということは、何らかの理由でそこから動かなかった訳であり、実質的に引き返しが妥当な危険な状況が予想される

またクマがいたら使えないということではない。参考資料1のフローのように、一旦遭遇して引き返した後には、ほぼ自動的に利用を再開することを想定している。これまではヒグマがいないことを確認して再開だが、いることを前提に利用再開している。この違いは認識してほしい。具体的な広報の文言レベルで、将来像のすり合わせが必要である。

## 議題2. 利用適正化計画の策定について、広報について

**環境省**：資料2-1～2-6に基づき、「利用適正化計画」に関して説明。

資料3-1～3-2に基づき、「広報」に関して説明。

**しれとこウトロフォーラム21**：認定料金はいくらになるのか？

**環境省**：料金は認定事務のボリュームによって確定する。次回以降お示ししたい。

**しれとこウトロフォーラム21**：地元の人への対応は？

**環境省**：そこまで議論が及んでいない状況。なにも規制がかからないというのは難しいが、住民の方への還元の方法については今後検討したい。

2. 閉会挨拶：環境省釧路自然環境事務所 則久次長

(以上)

知床五湖利用のあり方協議会(第5回)出席者

名前	所属団体
佐藤 正悟	ウトロ地域協議会
松本 鉄男	ウトロ地域協議会
金盛 典夫	自然公園財団
菅原 英人	斜里バス(株)
高木 規好	知床エコツーリズム推進協議会
松田 光輝	知床エコツーリズム推進協議会
佐々木 富美男	知床温泉旅館共同組合
綾野 雄次	知床ガイド協議会
関口 均	知床ガイド協議会
寺山 元	知床財団
増田 泰	知床財団
上野 洋司	知床斜里町観光協会
喜来 規幸	知床斜里町観光協会
青木 憲一	知床斜里町観光協会
小川 佳彦	しれとこ・フォーラム21
桜井 あけみ	しれとこ・フォーラム21
吉川 和成	しれとこ・フォーラム21
桂田 鉄三	知床民宿協会
千葉 修	ユートピア知床

事務局

則久 雅司	環境省釧路自然環境事務所
二戸 治	環境省釧路自然環境事務所
三宅 悠介	環境省釧路自然環境事務所
中村 仁	環境省ウトロ自然保護官事務所
樋口 伸司	北海道自然環境課 斜里分室
槇塚 貴稔	北海道網走支庁生活環境課
岡田 秀明	斜里町環境保全課